

MM FCM		3325500		
FCM BM		担当部署		
		血液		
<b>検査オーダー</b>				
患者同意に関する要求事項		特記事項なし		
オーダー手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		非特異反応によって正しい結果が得られない場合がある。		
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00		
<b>検体採取・搬送・保存</b>				
患者の事前準備事項		特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 骨髓	B M院内用	EDTA-2K	1	mL
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		室温		
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) 凝固検体 3) 採血量不足の検体 4) サンプルングできない検体		
保管検体の保存期間		室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）		
<b>検査結果・報告</b>				

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中				
生物学的基準範囲		該当なし				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	%
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		<p>多発性骨髄腫（MM）の診断・治療において、フローサイトメトリー（FCM）は重要な検査法である。この検査では、骨髄液中の形質細胞の種類や特徴を調べ、正常細胞と異常（腫瘍性）細胞を識別する。特に異常形質細胞は CD19 陰性・CD56 陽性などの特定のマーカーを持ち、FCM で明確に検出可能である。診断時だけでなく、治療後に腫瘍細胞がどの程度残っているか（微小残存病変：MRD）を高感度で評価でき、再発リスクや治療効果を判断する上で極めて有用である。次世代フロー（NGF）法では 10<sup>-4</sup>~10<sup>-5</sup>レベルの高感度検出が可能で、国際骨髄腫ワーキンググループ（IMWG）でも標準的な評価法として推奨されている。FCM 検査の結果は、個別の治療計画や予後予測の参考情報として活用される。</p> <p>（出典：International Myeloma Working Group updated criteria for the diagnosis of multiple myeloma）</p>				